

大津と京都の関係

大津は京都から電車でわずか9分。大津の住人は京都に通勤している人が多く、京都を訪れる人は日帰り、または長期滞在目的で大津を訪れています。しかし、この2つの都市は鉄道路線でつながっている以上のものを共有しており、深く絡み合った歴史を持っています。

8世紀、大津の比叡山延暦寺は、当時の平安京（現・京都）の守護を任されていました。現在、寺院の1,700ヘクタールの敷地全体が、他の京都の寺院の多くを含むユネスコの世界遺産に登録されています。江戸時代（1603～1867）、大津は京都と江戸（現在の東京）を結ぶ東海道の京都の玄関口としての役割を果たしていました。京都を目指す旅行者や物資は、まずは大津に留まりました。

また、両都市は琵琶湖運河によっても結ばれています。琵琶湖は、運河を介して新鮮な飲料水と水力発電を京都に供給しています。最初に建設されたときと同じように、京都と大津を結ぶ風光明媚なルートを、船が行きかいます。